け止め、活動を温かく見守り、時には、励ましの言葉をかけるなど、一人一人が成長するのを支え、手をさしのべることである。

「いきものとなかよし」の単元は、5月から11月まで長期間にわたって活動するので、活動意欲が持続するような支援が重要となる。活動意欲が持続する支援として、「言葉かけ」「環境」などが考えられる。

(4) 「魅力的な活動」とは

「ぼくもやりたい。」「わたしもやってみたい。」と子どものやってみたくてたまらないような活動、子どもが心を奪われるように夢中になって取り組む活動である。

Ⅲ 研究方法・内容

1 思いやりや願いを生かす工夫

2 活動意欲が持続する活動計画・支援の工夫

3 魅力的な活動の工夫

Ⅳ 研究の実際と考察

1 思いや願いを生かす工夫

(1) 実際

〈授業の実際の例〉

主な学習活動	時間	教師の支援
1．本時のめあてを知る。 (1) めあてをつかむ。 自分のそだてたいはなをきめよう。	15	○「世界で一つの自分の花を育てていくことを強調していく。
(2) どんな花があるか発表し合う。 ・自分の知っている花を発表する。 ・意欲的に発表する。 ・教科書を見て、花の名前と花を確認する。 ・種の袋を見て、花の名前と花を確認する。		○ 花の名前と花を確認するために、種の写真の載っている種の袋を準備して、子どもの発表に対応していく。
2．自分の育てる花を決めて、花の絵や願いをかく。 ・すぐに決まる子。 ・じっくり考えていて、なかなか決まらない子。 ひまわり　コスモス　マリーゴールド オクラ　アゲラタム　ほうせんか あさがお　はなびし草　まつばぼたん サルビア	25	○ 個に応じた支援を行う。 ・なかなか決まらない子へ →種の袋を見せて、迷っている原因を聞いていく。 ・願いの持てない子へ →「だれに見せたいの。」 「どこに飾りたいの。」 「どのぐらい大きく育てたいの。」 と言葉かけをしていく。
3．次時の予告を聞く。	5	

〈その他の思いや願いを生かした授業例〉

① 自分の花の成長をペープサートにして劇遊び

② 押し花作り

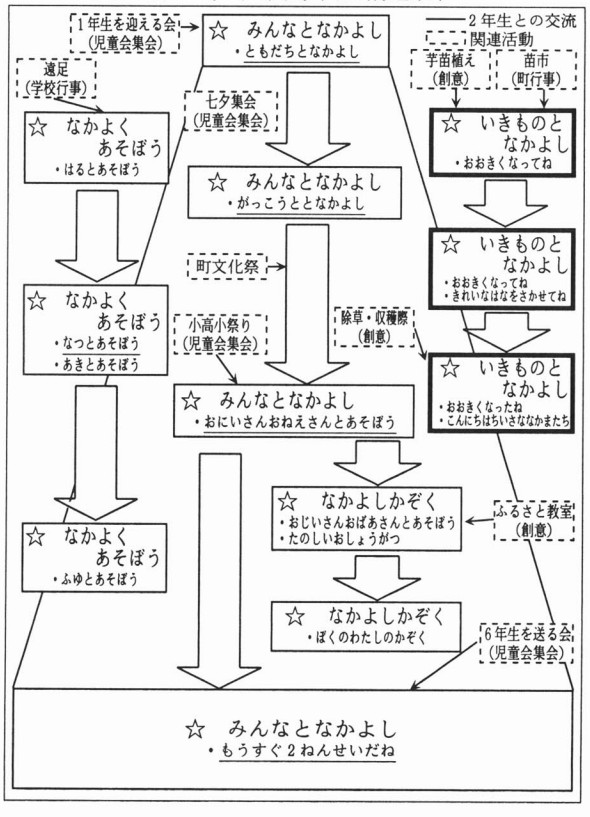
③ オクラのスタンプ遊び

(2) 考察

「自分が育てたい花を決める」活動は、一人一人の子どもに『自分だけのものだ。』『自分で育てるんだ。』という意識を持たせることができて、大変効果的であった。このことは、1週間経って種蒔きの時間に、全員の子どもが自分の花を覚えていたことからも分かる。また、この意識は、長期間の栽培活動を続けていく間も必要不可欠な物となるため効果的であった。

2 活動意欲が持続する連続性のある活動計画・支援

(1) 実際

〈年間単元構想図〉

第1学年年間単元構想図